

令和4年度 大田区立荏谷中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◇生徒数429名、学級数12学級、教員数22名  
 ◇特色ある教育活動としては、特に次の5点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「いじめ防止プログラム」「職場体験」「福祉体験」など体験的な取組を重視し、生徒の自己肯定感の高揚を図っている。③地域との連携に力を入れている。特に、防災教育については、町会及び関係機関と連携した学校防災活動拠点訓練の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を進めている。⑤生徒会・委員会活動、学校行事、部活動などを通して、生徒の自主性を育て、生徒主体の活動ができるようにしている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	コメント	
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:75%以上90%未満 2:60%以上75%未満 1:60%未満 <b>89.0%</b>  ②保護者による学校生活アンケートで「学校は、子どもの能力を適切に評価し、学習意欲を高めている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:75%以上90%未満 2:60%以上75%未満 1:60%未満 <b>78.0%</b>	3	◇夏休みや2学期末の三者面談で、学習面に関するアドバイスをを行った。生徒の学習習慣の定着のために、各教科の授業で勉強の仕方について指導すると共に、学校だより・学年だよりを活用し、家庭学習の内容や方法について保護者にも伝えていきたい。  ◇学習補助員を活用した放課後や土曜日の補習の他に、定期考査前に学年で質問教室を広く開くなど補習の充実にも努めた。土曜日の補習については、参加者が少ない日もあるので、実施直前に再募集をしたり、申込者に事前連絡を入れるようにする。  ◇授業改善推進プランの活用や評価と指導の一体化の研修には、引き続き力を入れて取り組んでいく。	A	6	◇評価は適切と思います。 ◇タブレットを使用しているため、生徒の視線が画面にいてしまい、教師の方を見ていない場面が多い気がする。 ◇ステップ学習チェックシートの評価が低い。今後の対応策をどうしていくのか。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2						
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3						
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		新学習指導要領のねらいを踏まえた評価方法の工夫をし、指導と評価の一体化に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4						
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	①全国学力・学習状況調査で「自分には、よいところがある。」という問いに「当てはまる」または「どちらかというと、当てはまる」と答えた生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満 <b>84.3%</b>  ②保護者による学校生活アンケートで「子どもの学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>76.1%</b>	3	◇小中一貫スタンダードなどを活用し、基本的な生活習慣や授業規律の確立について、全教員が意識して指導した。さらに、靴や靴下の決まりについて、生徒会を中心に生徒に考えさせ、きまりについての意識を高めた。  ◇道徳授業地区公開講座の実施や道徳教育推進教師による還元研修を実施した。年間指導計画及び別業を活用し、道徳教育の充実にも努めていく。  ◇年4回のアンケートで、いじめの早期発見に努めた。学校いじめ防止基本方針の内容について、朝の打合せの時間に何回かに分けて確認し、学校の取組についての理解を深めた。  ◇不登校生徒の状況を毎週の生活指導部会で確認した。また、月に1回はSSWに部会に参加してもらい、必要に応じてケース会議を開き、関係機関と情報を共有した。	A	9	◇評価は適切と思います。 ◇見落とししているいじめ、不登校等の前兆は本当は本当にないか、点検は必要かもしれません。 ◇休み時間に教員が紀要室内にいる取組は、気軽に相談ができるのでいいと思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおむね対応した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3						
		生徒の良い行為や努力した点を、効果的に褒め、自尊感情を育む。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。				4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	①生徒アンケートで「健康や安全に気を配って生活できている。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>90.5%</b>  ①生徒アンケートで「部活動に積極的に参加している。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>93.2%</b>
給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			3						
体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			3						
感染症予防、生活習慣病防止など健康の保持、増進に関わる教育を推進する。	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。			3						
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。			授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	①保護者による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>70.9%</b>  ②保護者による学校生活アンケートで「施設・設備の整備・修繕は適切に実施されている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>89.4%</b>	3	◇学校公開日の保護者アンケートを全教員で回収し、授業改善に生かすようにした。  ◇「評価と指導の一体化」と「ICTの活用」をテーマに校内研修会を実施した。  ◇研究発表会や各種研修会は、多くの教員が参加し、授業改善に生かした。還元研修や資料の供覧を行い、研修内容を学校全体で共有していきたい。  ◇サポートルーム専門員と特別支援教育コーディネーターの主導で、校内委員会を実施し、特別支援教育の推進を図った。  ◇ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備は、学校全体で組織的にはできなかった。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4						
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
		どの生徒にも学びやすい環境を作る視点で、ユニバーサルデザインに基づく学習環境の整備に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	①保護者アンケートで「学校の様子をHP・メールや学校からの案内プリント等で知ることができている。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>87.4%</b>  ②保護者アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育活動に活かしていますか。」という問いに対して、「そう思う」または「どちらかというと、そう思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 <b>72.1%</b>	3	◇OJTでホームページの更新の研修を実施し、学年に1名はホームページの更新ができる教員がいる状態にした。月に2回以上の随時更新はしているが、予め更新日を決めておき、定期的に更新できるようにしていきたい。  ◇学期に1回の地域連絡教育連絡協議会で学校の情報をその都度具体的に報告している。学校行事を協議会委員に公開し、実際に参観していただくこともできた。  ◇学校支援地域本部の支援の下、部活動の校外での発表や、地域と連携した福祉体験を実施した。  ◇6月に1年生全員と夜間学級の希望生徒が参加し、防災活動拠点訓練を実施した。一部実施できていない訓練について、今後どのようにしていくかが課題である。	A	7	◇評価は適切と思います。 ◇地域の活動に参加している生徒・保護者が共に少なく、地域として考えていきたい。 ◇コロナの規制が緩和されたら、学校に足を運びたい。 ◇学校のホームページの「学校日誌」の存在を知らない保護者の方も、たくさんいると思います。 ◇防災活動拠点訓練で一部実施できていない訓練とは何か。(一炊き出し訓練、飲料水確保訓練など) ◇町会では、子供達の顔が分からないことが課題になってきている。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4						
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3						
		特別出張所、町会と連携し、地域の特性を生かした安全・防災教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						